

# 耳 寄 り 情 報 百 科 令和4年 3 月 号



中南地域県民局地域農林水産部 農業普及振興室  
弘前市蔵主町4 電 話：0172-33-2902  
FAX：0172-34-4390  
黒石分室 電 話：0172-52-4335  
黒石市田中82-9 FAX：0172-53-4114  
HP [http://pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/ch-nosui/w\\_sy.html](http://pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenmin/ch-nosui/w_sy.html)



## 令和3年度の受賞者紹介

### 大湯知己氏（平川市）が「第23回全国果樹技術・経営コンクール」で農林水産大臣賞を受賞

平川市碓ヶ関地区で、りんごの大規模生産を実践している大湯知己氏が第23回全国果樹技術・経営コンクールで最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。

大湯氏は17haでりんごを生産し、その約8割がカットりんご仕向けです。このため、摘果回数の削減や葉とらずなどの省力栽培に加え、近年、高密度植わい化栽培を導入するなど、さらなる省力化に取り組んでいます。また、自らが開発した褐変防止技術等によるカットりんごの製造・販売を全国展開する「(株)アップルファクトリージャパン」と、加工原料の安定供給と効率的な栽培管理を行う「(株)ファームあおもり」を設立するなど、りんごの生産から加工・販売までを法人化し、多角経営することにより同地区に貴重な雇用の場を創出しています。加えて、放任園の未然防止と産地の維持に貢献していることなどが高く評価され今回の受賞となりました。

大湯氏は、過疎化する地域の中核的な担い手として、これまで以上に放任園の再利用や雇用の確保により地域の活性化に貢献したいとしています。



受賞者 大湯氏

担当：果樹・花き班

### 株式会社百姓堂本舗（弘前市）が

### 青森県「攻めの農林水産業賞（農山漁村づくり部門）」で大賞を受賞

弘前市でシードルの製造・販売とりんご生産を行う「株式会社百姓堂本舗」が「攻めの農林水産業賞（農山漁村づくり部門）」で最高賞の大賞を受賞しました。

「百姓堂本舗」は、担い手不足や放任園の増加など、りんご産業が廃れていくことへの危機感から、りんご園でイベントを開催し、観光コンテンツとしての「りんご」の発信や、人を呼び込むアイテムとしてシードル製造を行っています。

これらの取組により、りんご栽培に興味を持った若者を社員として受け入れ、後継者を育てる場として「kimoriキャンパス」を立ち上げるなど、非農家出身者が新規就農する仕組みをつくり、りんご産地を守る挑戦を続けていることが評価されたものです。

一昨年の「タムラファーム株式会社」、昨年の「農事組合法人しみず」に続き、管内から3年連続での大賞受賞の快挙となりました。



受賞者 高橋氏と齋藤部長



Kimoriシードル

担当：企画班

## タムラファーム株式会社（弘前市）が「青森りんご勲章」を受章

弘前市のタムラファーム株式会社（代表：田村昌司氏）が、本県りんご産業の発展に貢献した個人・団体に贈られる「青森りんご勲章」を受章しました。

タムラファームは、県内6次産業化の先駆けとして、りんごの生産に加え、アップルパイやシードルなどの加工品を製造・販売しており、青森りんごの認知度向上や消費拡大に貢献しています。また、りんご産業の将来を見据えた人材育成や観光振興への積極的な取組も行なっており、りんごを通じた地域活性化につながる活動が高く評価されました。



「青森りんご勲章」授章式

担当：りんご農産課

## 品川氏・白戸氏（田舎館村）が米の食味コンクールで受賞

田舎館村の米生産者2名が、令和3年産米の食味を競うコンクールで受賞しました。

品川準一氏は、静岡県で開催された「第23回米・食味分析鑑定コンクール国際大会」に「ひとめぼれ」を出品し、全国や海外から5,141点が出品された国際総合部門で、最高賞に次ぐ特別優秀賞を受賞しました。

白戸卓郎氏は、青森県が主催する「あおもりの旨い米グランプリ」の「青天の霹靂」部門で準グランプリを受賞しました。白戸氏の準グランプリ米は、村内の中学校と小学校の給食に提供されました。



鈴木村長(中)に受賞報告した  
品川氏(左)と白戸氏(右)

担当：黒石分室

## 小山内勝氏（弘前市）が「土づくりの匠」に認定

健康な土づくりの指導的役割を担う農業者である「あおもり土づくりの匠」に今年度は新たに、弘前市でりんごを栽培している小山内勝氏が認定されました。

小山内氏は、有機質資材の施用や他県で実施されている土づくりの技術を自園地で実証し、効果のあった技術を取り入れています。また、青森県特別栽培農産物に取り組むなど、環境にやさしい農業に貢献しています。

担当：稲作・畑作・野菜班



匠の認定を受けた  
小山内勝氏



## 中南型産直モデルの実証

産直施設が抱える課題を解決し、地産地消の推進による地域の活性化を目的に本年度設置された「中南地域産地直売施設協議会」では、農福連携、FMを活用したPRなどに取り組みました。

### (1) 農福連携による野菜の袋詰め

農家が生産した野菜を障がいを持つ方が袋詰めし、産直施設で販売しました。きれいに袋詰めされた野菜は産直施設の「農福連携コーナー」に並べられ、率先して購入する消費者も見られました。



福祉事業所での作業状況

### (2) 産直リポートの放送

FMアップルウェブで、産直施設の売れ筋商品などを現地から生放送しました。

「FM放送を聞いて来た新たな消費者もあり、効果を実感した。」との感想がありました。



産直施設の農福連携コーナー

### (3) スタンプラリーの実施

産直施設で買い物をしスタンプを集めると、こぎん刺し風エコバッグがもらえるスタンプラリーを開催しました。「新たな直売所へ行くきっかけとなった」、「デザインが良いですね」などの反応がありました。



担当：企画班

エコバッグ

## ハウスを有効活用した新規就農者への支援

新規就農者が集落営農組織の所有するハウスを借り受け、初期投資の軽減を図るとともに、集落営農組織へ労働力を提供する仕組みづくりに取り組みました。

管内の集落営農（54組織）と野菜生産に取り組む新規就農者（77名）を対象に、営農状況やハウスの貸借に関するアンケート調査を実施し、新規就農者の営農拠点からの移動時間や作付品目などを考慮して、マッチングを行いました。

その結果、本年度は3名の新規就農者が野菜を生産（弘前市：ピーマン、平川市：ミニトマト、パクチー）し、集落営農組織の水稲育苗箱の運搬やハウス周りの除草作業などを手伝いました。

また、ハウスの自力設置に向けた研修を行い、受講した者等14名の若手農業者が18棟のハウスを自力で設置し、経費を削減しました。



新規就農者による労働力の提供



ミニトマトの管理をする若手農業者

担当：経営・担い手班

## りんご経営におけるスマート農業技術の実証

りんご研究所が代表機関となり立ち上げた「青森県中南部地域りんごスマート農業実証コンソーシアム」に当部も参画し、令和2年度から2年間、りんごの大規模経営を行う弘前市のもりやま園株式会社において、次の3種類の技術について、実証試験に取り組みました。

①作業時間をスマートフォンで簡易に記録する「Agrion 果樹」

②自律走行無人草刈機「クロノス」

③画像解析機能付き透過型光センサ選果機「ひかり庵」

この結果、「ひかり庵」の導入により農作業に不慣れた臨時雇用者でも選果に対応でき、また、りんご果実の外観及び糖度、蜜入りによる規格別在庫が把握可能となり、大口から小口までの幅広い顧客のニーズへの対応により、生食用りんごの販売額が増加し、作業時間当たりの収益も向上することなどを明らかにしました。

担当：果樹・花き班



自律走行無人草刈機の稼働状況



選果機による選果作業

## 「うるしの森づくり」の取組

～あなたも うるしを植えてみませんか～

当部では、国産漆の需要が拡大する中で、津軽塗産業での漆の地産地消を目指した「うるしの森づくり」に取り組んでいます。

平成30年度からうるしの苗木生産体制の整備、モデル林による地域に適した施業方法の実証、研修会による苗木生産や植栽・保育管理手法の普及などにより、うるし林造成に向けた基盤を整備してきました。

今後は、これまでの取組を踏まえつつ、管内で問題となっている「りんご放任園」などへの植栽で造成を本格化させ、令和7年度までに7,500本の植栽を達成したいと考えています。

令和4年度からは、苗木の一般販売も始まるほか、モデル造成地も設定していく予定ですので、興味のある方は、ご連絡ください。

担当：林業振興課  
☎0172-33-3857



施業技術の普及



モデル実証林（りんご放任園）



# 教 え て ! ほ 場 整 備

ほ場整備事業とは、農地や農道、用水路、排水路等の整備を一体的に行い、区画形状を整理し生産性の高い農地にする事業です。

最近では、担い手への農地利用集積を進め、大型機械での低コスト農業実現を目指すなどの目的で行われることが多くなってきました。

## 〈困っていませんか?こんなこと〉

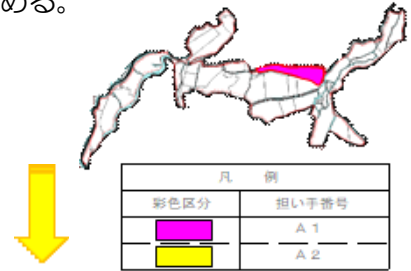
- ・大型農業機械の利用が不可能で作業効率が悪い
- ・水はけが悪く、野菜の作付けが出来ない
- ・農業水利施設の維持管理に多大な労力を要している
- ・遊休農地が増加している
- ・農業者の高齢化、後継者不足

## 〈ほ場整備でこうなります!〉

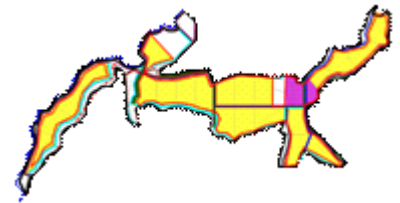
- 区画を大きくすることにより大型機械の導入が可能になる
- 生産コストが低減され、効率的な営農が実現する
- 用水や排水条件が整備され、新たな作物の作付けが可能になる
- 農地の貸し借りの条件が良くなり、意欲ある担い手への農地集積が促進されるetc

A地区

(現況) 集積率：4.8%  
個別農家の水稲単作営農が多くを占める。



(計画) 集積率：88.9%  
基盤整備を契機に意欲ある担い手に農地の集積・集約化を図る。



## 令和3年度の中南管内のほ場整備事業進捗状況

調査計画1年目	調査計画2年目	事業着手
【藤崎町榎地区】 榎地区農地中間管理機構 関連農地整備事業推進協 議会を開催し、計画策定 に取り組んだ。	【弘前市猿沢地区】 国の審査や手続きを終え、 令和3年度の事業着手に向 けて土地改良法の手続きを 進めている。	【弘前市】 三省地区 【藤崎町他】 福島地区 【田舎館村】 高田地区

担当：農村計画課  
☎0172-33-4054

## りんご作業の労働力確保に向けたパンフレットの作成

当部では、りんご産地の労働力不足の軽減を図るため、農家の方が労働者を雇用する際のポイントを整理した「中南地域りんご補助労働者確保マニュアル」、求職者が農作業に従事する際のポイントを整理した「りんごづくりを体験してみたいあなたへ」と題する2種類のパンフレットを作成しました。

パンフレットは市町村、農協の無料職業紹介事業の担当部署へ配付しており、また、当部のホームページからも入手可能ですので、参考にしてください。



農家向け



求職者向け

担当：りんご農産課  
☎0172-32-3305

## あおり米新品種の名称が「はれわたり」に決定！

県では、令和3年11月29日、夏期の高温での品質低下が少ない、あおり米の新品種「青系196号」の名称を「はれわたり」と発表しました。

本格デビューは令和5年産からですが、令和4年は県内各地に拠点ほを設置することとしており、生育状況を間近に見られるようになります。ご期待ください。

### ■名称の由来

青森の空が広く晴れわたる様子をイメージさせます。

米価が大幅に下落し、生産者の皆様が米づくりの先行きに大きな不安を抱いている状況で、県産米の未来が拓け、生産者の気持ちも明るく晴れやかにさせる存在となることを願い命名されました。

### ■特徴

出穂期、成熟期が「まっしぐら」並で、胴割粒の発生が極めて少なく、障害型耐冷性やいもち病抵抗性が強い特性があります。

白米のアミロース含有率が低いため米飯は柔らかく粘りがあり、食味が良好です。



三村知事による名称発表



令和3年の試作ほの様子

担当：稲作・畑作・野菜班

## シャインマスカット急増中！

大粒のぶどう「シャインマスカット」は食味が良く、皮をむかずに食べられることから大人気で、中南地域でも生産が拡大しています。

現在の栽培面積は約4.5haで、この5年間で約10倍になり、出荷量も急増しています。近くの直売所などで見かけたり、購入する機会も増えてきたのではないのでしょうか。

おいしい「シャインマスカット」を安定生産するため、無核処理を始め、摘粒（粒抜き）や枝の管理、病虫害防除など、青森県での栽培に適した管理方法が毎年発表されています。

当部では、これらの管理方法の指導に取り組んでいますので、これから栽培を考える方、また、栽培方法に悩んでいる方は、お気軽にご相談ください。

担当：果樹・花き班



シャインマスカット園地



シャインマスカットの果房



## 土の見える化（総合診断）に基づく土づくり

県では、今年度から『土の見える化』が拓く農業生産ステップアップ事業」を実施し、土壌の化学性（養分バランス等）と物理性（土のやわらかさ、透水性等）の改善のほか、生物性（土壌微生物のバランス、有機物の分解、腐植の生成等）も加えた三つの要素の総合診断に基づく土づくりの必要性を啓発しています。

中南管内では、そのモデル実証ほを、弘前市のりんごほ場と藤崎町のにんにくほ場に設置しました。

特に今回は、SOFIX農業推進機構と連携し、生物性の改善に重きを置いて土壌細菌の量を測定し、どのような有機質資材が適しているのかの処方箋を基に、生産者と意見交換を行い、資材を投入しました。

現在、効果を確認中で、結果がまとまりましたら本紙で紹介します。



にんにくほ場の土壌調査

担当：稲作・畑作・野菜班

## 「STOPオミクロン」 あなたの対策大丈夫？

オミクロン株の急速拡大により、新型コロナウイルスの感染リスクは身近に存在します。

家族や雇用者、そして自分の経営を守るため、今年の農作業が始まるこの時期に、感染対策を再確認しましょう。

### 主な感染防止対策

○人に会うときは



○普段一緒にいない人との接触をなるべく避ける



○屋内での作業中は



1時間に  
2回以上、  
数分間  
窓を開ける

○体調が優れないときは



などを実践してください。

○会食するときも



担当：企画班

# 『新』農業経営士、青年農業士、ViC・ウーマンの御紹介

## ● 農業経営士



弘前市中崎

みうら ひろゆき  
三浦 裕行さん  
(水稲、にんにく)



黒石市温湯

やまだ こうじ  
山田 広治さん  
(レタス、キャベツ等)

## ● ViC・ウーマン



平川市長田

たかい みなこ  
高井 美奈子さん  
(ミニトマト)



藤崎町俵舂

ふくし よしこ  
福士 佳子さん  
(水稲)



## ● 青年農業士



弘前西大工町

さいとう よしひこ  
齋藤 良彦さん  
(イチゴ、ネギ等)



弘前市相馬

しばた こうへい  
柴田 康平さん  
(りんご)



平川市尾崎

さいとう まさのり  
齋藤 正紀さん  
(りんご、ミニトマト)



平川市大光寺

なるみ さとし  
鳴海 哲嗣さん  
(りんご)



藤崎町西中野目

やすた ひでひろ  
安田 英広さん  
(りんご、ブルーベリー)

## 今年度任期満了者 敬称略

### 農業経営士

- ・成田 馨 (弘前市)
- ・今 隆 俊 (黒石市)

### 青年農業士

- ・工 藤 高 嗣 (弘前市)
- ・児 玉 享 士 (藤崎町)
- ・安 田 浩 幸 (藤崎町)
- ・佐々木 慎 (大鰐町)
- ・白 戸 卓 郎 (田舎館村)

### ViC・ウーマン

- ・清 野 優美子 (弘前市)
- ・澤 田 登美子 (弘前市)
- ・渡 邊 祐 子 (黒石市)
- ・佐 藤 睦 子 (黒石市)
- ・佐 藤 秀 子 (藤崎町)

## お世話になりました

～令和4年度定例人事で退職・異動する職員～

### 【退職者】

職 名	氏 名
農業普及振興室長	齋 藤 力
総括主幹 (稲作・畑作・野菜班)	高 田 浩 美

### 【異動者】

職 名	氏 名	新任地
主幹 (経営・担い手班)	長 尾 博 美	西北地域農林水産部
主幹 (稲作・畑作・野菜班)	八 島 敏 行	西北地域農林水産部
主査 (企 画 班)	吉 川 育 子	東青地域農林水産部
主査 (果樹・花き班)	工 藤 悠	りんご果樹課
技師 (稲作・畑作・野菜班)	白 戸 真由美	農産園芸課